

コロナ禍における 幼保小の学びの保障

令和2年度 中央区幼保小連携推進協議会資料

年度当初、計画していたパネルディスカッション協力者に
情報提供していただき、代表者会でまとめました

■協力園・学校： 伏見小学校 大谷オアシス保育園 つぼみ幼稚園
代表者会の園・学校

■アンケート(下記の視点からの成果や課題)の回答

1. 安心して園・学校生活を送るために
2. 学びを保障する具体的な取組
3. 子どもの育ちをつなぐために必要なこと
4. その他

園・学校再開～手探りの感染予防対応

【小学校では・・・】

・一斉休校。6月再開し、前半は短時間時差登下校を経て、徐々に通常カリキュラムへ。夏休短縮。

★健康調査用紙活用(有症状＝欠席扱い)

(児童本人～朝夕検温状況・風邪症状の有無)

(家族～風邪症状の有無)

★マスク着用(体育や熱中症対応時は外す)

★手洗いや手指消毒 ★備品や共用施設消毒

★身体的距離確保の座席。空教室や体育館の活用も

★扇風機や冷風扇等の購入 ★ICT環境整備

【幼稚園・保育所・認定こども園では・・・】

・6月まで幼稚園9割は休園措置。一部預かり保育稼働

・保育園も登園自粛要請。どうしても保育の必要な家庭のみ登園。

★園児のマスク着用は、園ごとの判断。

乳幼児は衛生的に扱うことが難しく、小児医学会も呼吸器未発達なこともあり、必須とはしていない。保護者や保育者はほぼ着用。

★手洗いや手指消毒の強化(泡石鹸や手指消毒準備)

食前や排せつ後以外にも(登園直後・共用の遊具使用后・次の活動や場に移るとき・片付後等々) 散歩時は手指消毒グッズ持参

★小まめに遊具や備品・用品の消毒

★保育室用サーキュレーターや空気清浄機、エアコン、食食用パーテーション等の購入

★市立幼は、小学校同様の健康調査や夏休短縮を実施

1. 安心して園・学校生活を送るために(小学校)

◎よかったことや成果

■困ったことや課題

今年度から義務化

スタート・カリキュラムの活用

- ・「できること」と「できないこと」を明確に
- ・ポイントを絞り「できること」を丁寧に進める

◎共通理解が進み、学年揃っての指導が効果的にできた。

■入学後すぐに休校になり、「学校生活に慣れる」と「コロナ対応」の2つをクリアするのはとても困難だった。

■例年以上に「親離れできない」「人間関係構築に時間を要する」「学習の仕方」などの課題

新しい学校生活様式をイラストで作成

- ・基本バージョンを各学校でアレンジして作成

◎絵と簡単な言葉で、3密回避のポイントなどコロナ対応策を理解と周知に役立った。

◎学びのサポーターを重点的配置により、一人一人に丁寧に関わる。

■個人差が大きく、様々な約束や制限に時間がかかる子もいた。(際限なく話す・遊べない)

1. 安心して園・学校生活を送るために(園)

◎よかったことや成果

安心して遊ぶ・生活できる保育環境を整える

- ・分散登降園や密にならない遊び場の分散
- ・一人一人の興味・関心に沿った遊びの環境
- ・学級活動や昼寝、食事の3密回避の配慮

◎みんなで「これで大丈夫か」と共通理解し、確認しながらすすめることで、リスクや不安を軽減

◎短時間・分散保育のとき、一人一人と丁寧に対応できたり、子どもも集中力が高かった。

◎迅速に保護者に発信することで理解や協力が得られた。

- 保育者(教師)の作業が膨大に
- 健康管理の不安
- 必要な物品がすぐに手に入らない

■困ったことや課題

幼児の発達特性と感染対策との折り合いが難しい

・国や道、札幌市のガイドラインを参考に、各園で判断・共有・確認を手探りで進める。

◎ダメなことばかりにならないように、幼児が理解しやすいように、足形をつけて並び方を示したり、手洗いのポスターを掲示したり、視覚的教材の工夫することにつながった。

■幼児の発達・特性から無理な事柄が多く、個人差もとても大きいことから、身に付くまでに時間を要する。

■幼児期の教育で重視していることを制限される場面が多く、保育者のジレンマやストレスが高い。また保護者の理解が得られるか危惧された。

2. 学びを保障する具体的な取組（小学校）

◎よかったことや成果

スタート・カリキュラムと学年カリキュラムを合わせて活用

- ・時数管理と指導内容の重点化
- ・効率的な指導と柔軟な対応
- ・教育課程の再編成

◎学年主任が中心に上手くマネジメントできた。

◎学年研修を綿密に行い、約束ごとを統一するなど一貫性をもった指導に。安心して通学する姿につながった。

■感染対策の点から、行事や教科によって制限が伴うものが多々出て、代替策に苦慮している。

■困ったことや課題

休校中も学びを止めない工夫の具体例

- ・家庭学習の課題プリントを一軒一軒にポストイン
- ・電話で個別フォロー
- ・学校HPに「校名〇〇チャンネル」開設・・・等

◎個別フォローを丁寧に行うことで、安心感を与えたり、保護者にポイントを知らせることができた。在宅ストレス緩和効果も。

■まだ自学が身に付いていないので、児童も保護者にもフォローが必要。全校児童対象のものは、1年生には難しい。

2. 学びを保障する具体的な取組(園)

◎よかったことや成果

■困ったことや課題

園の教育について再考し、共通理解する

- ・教育課程や園生活の仕方について、一つ一つ確認したり、見直す
- ・遊びの充実、活動場を分散、積極的な戸外活動、安心できる環境
- ・感染予防(手洗い・消毒洗浄・身体的距離等)対応の指導強化と環境整備
- ・保護者にも随時周知し、理解と協力を求める

◎感染対応を考慮した様々な工夫や試行錯誤をみんなで考え、実践している。

◎迅速に保護者に発信することで理解や協力を得られた。

■幼児が理解し、対応できるまでに時間を要するので保育者(教師)の配慮や作業が膨大に

■必要な人材・物品がすぐに手に入らない

■国からのガイドラインや指針などの情報がとても少なく、各園での手探りでの試行錯誤がずっと続いている

行事の中止・延期・縮小など実施方法を見直す

- ・中止ではなくできるだけ延期を選択 ・人数制限
- ・短時間制や学年入替制が多くなった

◎一つ一つの行事の目的や内容について見直すことができ、精選したり、園として大事にしたいことを共有することにつながった。

◎「発達」と「経験させたい内容」をすり合わせ、検討

◎幼児なりに適応するたくましさが見られる。

■延期のため、後半の行事日程が混み合う

スケジュール管理が厳しくなった。

■「感染対策」と「幼児期の教育」の両立が困難

3. 子どもの育ちを支え合うための家庭との連携（小学校）

◎よかったことや成果

■困ったことや課題

学校からのきめ細やかなアプローチ

- ・電話相談や面談で、丁寧な個別対応
- ・SCや外部関係機関との協力や連携

◎保護者も1年生の場合、不安や心配が募りやすい。休校中も定期的な電話連絡や面談で、一つ一つ丁寧に受け止め、説明することで安心感や信頼感に。

◎担任・学年主任・コーディネーターで連携し、チームで情報共有と対応を検討できた。

◎教育委員会から、校種共通の情報発信（学習や心身ストレスへの対応）を随時実施。

表面化しない悩みや長期化する困りごと

- ・行事や参観の延期や中止に伴い、保護者が来校する機会の減少に対する対策を講じる

◎二学期以降、徐々に取り戻すべく行事を見直したり、学校の意図を丁寧に周知したりする。

◎HPの保護者限定ボックスに随時情報提供する。

◎行事について、各学校の見解を丁寧に情報発信。

■保護者や家庭で不安感の差が大きい。

■HPやお便りをよく見ていない家庭もある。

3. 子どもの育ちを支え合うための家庭との連携(園)

◎よかったことや成果

■困ったことや課題

連絡ツールをフル活用

- ・園メール・HP保護者限定ボックスの活用
- ・子どもの様子の写真掲示(玄関やバス掲示)
- ・お便り増刊 ・個別面談や定期的な電話

◎新入園児も園再開を楽しみに待っている等の声が寄せられ、短時間で職員体制を厚くして関わることで安心感につながった。

◎早め&丁寧な情報発信により、安心&信頼感につながる

■HPの情報はよく周知されていない家庭もある。

送迎時の情報交換・行事等での参観

- ・園の取組や方針について理解・浸透が図られているか確かめたり、アンケートを取ったりして把握

◎迅速かつ丁寧な対応に努めたことで信頼感につながった。

◎2号認定児(預かり保育や長時間利用)は登園していたので、変わりなく園生活を継続できた。

■行事の延期期間が長くなったり、参観していない家庭もあり、職員も様々な心配を抱えていた。

幼保小連携で必要なことは・・・

■各園や学校で整理⇒互いの現状を知り、受け止め、理解しようとする

①感染対策の視点

②子どもの育ちや学びの視点

何を どのように変更したのか その結果どうだったのか(教師側・子ども側)
今後どんなことが心配されるか、期待されるのか。

■今後の連携の在り方や方法について見直す(以下は提案)

- ①近隣の園・学校間で「スタート・カリキュラム」について理解を深めたり、意見交流したりする場をつくっていく。(保護者の不安軽減や理解浸透の面から、情報提供できるように)
- ②直接交流ができないときの工夫を話し合い、各園や学校で無理なくできることを探っていく。
 - ・ICTを活用し園と学校を結ぶ ・状況の悪い時の有効な引継ぎの仕方を準備しておく
 - ・写真やお手紙等、紙媒体で掲示し、見える化することで子ども同士の関心を高める